



にいがた  
映画塾通信

第三号(九八秋)

編集・発行  
にいがた映画塾

〒950-0086  
新潟市花園2-3-2 飛鳥ビル1F  
電話・ファクス025-243-5653  
(in out内)

# コバさん「人間探求」の軌跡

12月2-8日  
小林 茂 展  
教育 福祉など  
「全仕事」紹介

小林茂(こばやし・しげ)1954年新潟県生まれ。長岡高校・同志社大法学部卒。「福祉」を問いつづける柳沢寿男監督の助監督を経て、「阿

新潟側からは矢部孝男代表ら役員、講師のナシモトタオ氏、一期、二期、三期の卒業生の計十人が自費で参加。「白痴」の古澤敏文プロデューサーも東京から招かれた。桐生側は約二十人が集まった。

つ桜井隆光氏のトークショウや「障害をもつ子供の目から」と題した長沢正樹新潟大講師の講演も行う。

一期から三期の作品上映後の質疑応答では「桐生でも映画塾を立ち上げるにはどうすればいいのか」という質問が出た。矢部代表は「桐生は『白痴』以外にも『のどじまん』(井筒和幸監督)やピーター・グリーンハウエイ監督がロケに訪れている。映画に接する機会が多くてうらやましい。そういった環境を大事にして地域性に合った映画塾をつくりあげてほしい。こちらでできることは協力したい」と励ました。

小林氏の写真展「ウガンダに生まれて」と初の監督作品「放課後」の上を以て中心に、小林氏が企画段階から参加し、映像、教育、音楽などをテーマにした盛りだくさんのイベントを日替わりで行う。

協力は新潟市内の主なブレイガイドで販売している。写真展と「放課後」上映のどちらか一回の入場が五百円。その他のイベントは一回千円、期間中すべて入場可能なフリー券は二千五百円(当日三千円)となっている。小中学生は無料。問い合わせは電話025-223-0164(高橋)へ。

古澤氏も「組織、機材が重要ではなく、まずビデオでもいい。自分たちの今ある機材で何度か作品づくりをやってみて、足りなければ『白痴』などを通じてできたネットワークをいかして、ほかから人的協力を仰げばいい」と、考えるよりまずは行動することをアドバ

## 桐生で映画塾交流

イベントは映像関係では「放課後」「阿賀に生きたる」のほか、「闇を掘る」の予告編も上映。「極北の怪異 ナヌーク」(二二年、ロバート・フラハティ監督)や「教室の子どもたち」(五四年、羽仁進監督)

映画塾、桐生になぐり込み! 映画「白痴」のロケ地、群馬県桐生市の人々と卒業作品上映などを通じて交流を深める「にいがた映画塾デモンストレーションin桐生」が十一月八日、同市西公民館で開かれた。

桐生とは「白痴」や、原作者・坂口安吾ゆかりの地であることなどを契機に交流が生まれた。桐生でも「映画塾」発足の気運が高まっていることから、同市有志の招きを受け、新潟の活動状況を報告することになった。

桐生側からは矢部孝男代表ら役員、講師のナシモトタオ氏、一期、二期、三期の卒業生の計十人が自費で参加。「白痴」の古澤敏文プロデューサーも東京から招かれた。桐生側は約二十人が集まった。



小林茂写真集「ウガンダの子どもたち」から

われらがコバさんこと、ドキュメンタリー映画カメラマン・写真家の小林茂氏の映像・作品展「こどもの宇宙(そら)」を、12月2日から8日まで、新潟市万代シティのギャラリー「リターナ」で開催する。

